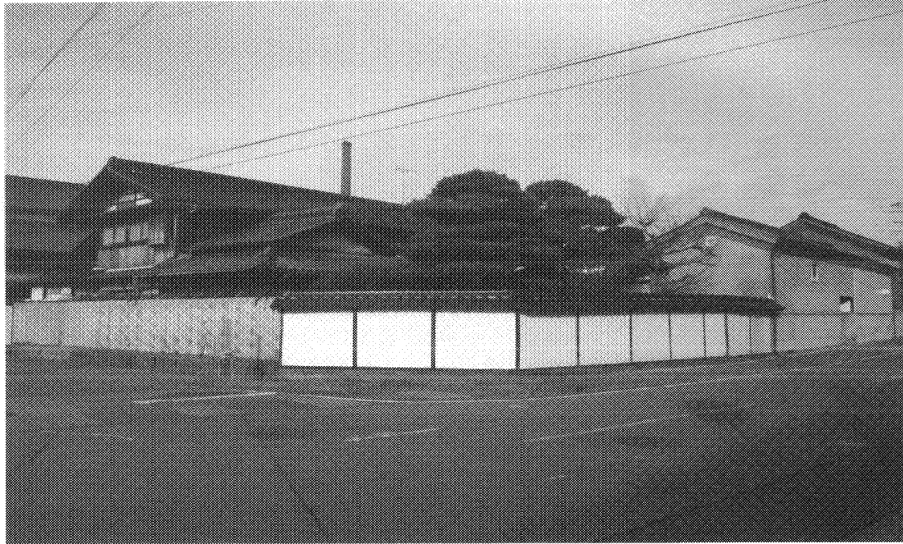


長野県建築士会  
佐久支部

# らしく又



## 佐久の蔵元

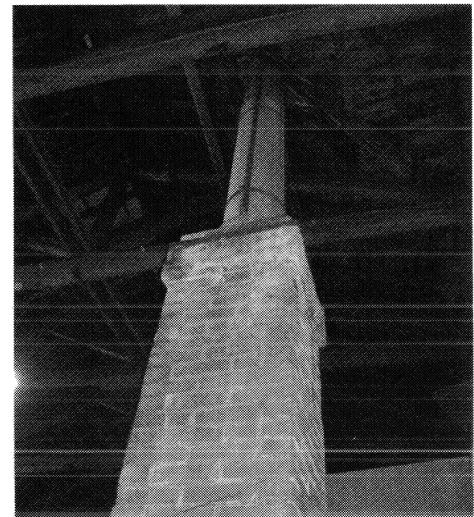
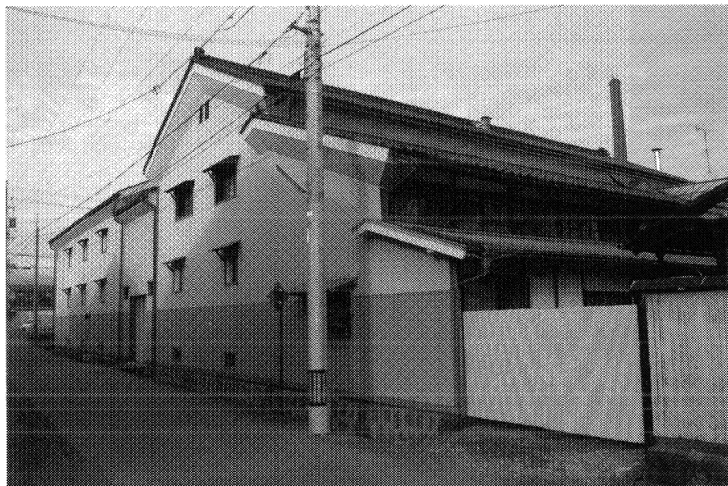
～挑戦と研鑽～

### 株式会社古屋酒造店

佐久市塚原411

皇女和宮の行列が歴史の道、中山道を往った頃、弁財天の森を後ろに抱いて、「青葉まじりにみずみずしく咲く深山桜」とうたわれた酒蔵が生まれ、今に地酒を伝えている。

絹のような飲み口、端正なうま味、岩清水の後口を持つ、「生粋の地酒」を目指し、「挑戦と研鑽」をモットーに、手仕事による丁寧な酒造りを徹底している。



支部長あいさつ	2
建築課長あいさつ	3
全国大会最高賞受賞	4～5
事業中間報告	6～7
三団体合同研修旅行	8～9
建築士ネットワーク・2013	10～11
ウッドクラフト事業報告	12
文化賞入賞者	13
特別寄稿	14
新会員の声	15
事務局より	16

モクジ

## 新年のご挨拶

(一社) 長野県建築士会佐久支部

支部長 荻原 白



新年あけましておめでとうございます。

会員の皆さまにおかれましては、穏やかな新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

昨年5月に支部長となり、時速200kmかと思われる程早く通り過ぎて行く日々に戸惑いながらも会員の皆さま方のご協力のお陰で何とか会を運営できた事に厚くお礼申し上げます。

昨年4月1日より一般社団法人長野県建築士会に移行した私共の組織ですが、障害も無く従来通りの活発な支部活動が継続して実施されました。この勢いを衰退させず走り続けますので会員の皆さま、本年もどうぞよろしくお願い致します。

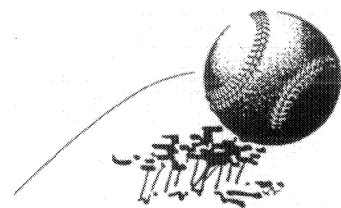
私のボス宮本が常日頃、何処の町にも村にもお宝が必ず眠っている。そのお宝を発掘し地域の皆さまとその価値を共有し此れからのまちづくりに活かして行く事が我々建築士の仕事だと申しております。その事をまさに実践した青年女性委員会『佐久穂まちなみ再考プロジェクト』の活動が昨年10月に鳥根県松江市で開催されました日本建築士会連合会・全国大会において連合会長賞を受賞し全国一と成りました。私共支部は勿論、長野県建築士会においても本当に素晴らしい受賞であり、私は青年女性委員の皆さまの若い熱いパワーを今年も更に見せ付けて頂きたいと思っております。そして今日のように「活発な支部活動が出来る環境」を北佐久支部と南佐久支部の合併当時（平成元年）から

の先輩諸氏が築き上げて来て頂いたからこそ、全国一の栄冠を勝ち取る事が出来たと実感しております。この『DNA』をきちんと継承し次へのステップと皆で行きましょう。

前述でも触れましたが、4月に一般社団法人に移行し一部改革も実施された影響なのか判りませんが、佐久支部においても昨年3月末での退会者が急増し昨年12月現在の会員数は360名と成っております。この数年事業計画の第1として会員拡大事業を挙げておりますが、今年には会員全員で本腰を入れ特に若い青年・女性建築士さんをターゲットに新規会員加入を積極的に推し進めて参りますので、よろしくご協力の程お願い致します。

最後に私共建築士でなければ「家も建物も…」設計監理する事は出来ません。建築士は独占的な職能です。会員の皆さまひとりひとりの自己研鑽の為にも沢山の講習会・講演会・見学会等を計画・実施し、会員同士の和気藹々の親睦事業も大切に実施し、そして地域社会から期待され、地域の皆様との交流連携を通してより良い郷土を創る為に皆で頑張る、今年も更に《花も実もそして力もある》佐久支部にして行きましょう。

4月1日から消費税が8%と成り、私共の仕事にどのような影響が出て来るか判りませんが、会員の皆さま方の心と身体の健康と更なる発展をご祈念申し上げまして新年のご挨拶とさせていただきます。



## 新年のご挨拶

長野県佐久地方事務所

建築課長 **上原 佳司**



新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様方には、平成26年の輝かしい新春を健やかに迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

昨年中は、長野県建築住宅行政への心強い御支援、御協力を賜り、心から感謝申し上げます。本年も、昨年同様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

既に御案内のとおり、昨年の4月から、「確かな暮らしが営まれる美しい信州」を基本目標とする新しい総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン」がスタートしました。県づくりの様々な課題や方向性を県民の皆様と共有しながら、今年もこの計画に基づき、県が進める各施策を推進してまいります。

また、県では、信州人に刻まれたおもてなしの心を、いま一度掘り起し、活かして、「日本一のおもてなし県」を目指すため、信州のすみずみまで“おもてなし”で満たす「ずく出し！知恵出し！おもてなし」プロジェクトを開始します。

皆様方にも、本プロジェクトに御参加していただきたく御案内申し上げます。

なお、応募方法等詳しくは、長野県公式ホームページをご覧ください。

さて、本県の建築を取り巻く情勢ですが、経済動向の主要な指標のひとつであります県内の「新設住宅着工戸数」は、2年連続で前年度を上回りました。今年度の動向につきましても前年度を上回っている状況であり、住宅投資は持ち直しの兆しが見えてきておりますので、今後の動向を引き続き注視してまいりたいと思いま

す。

昨年は、「信州らしさ」や「ふるさと」が実感できる農村風景を県民の皆様にも再発見していただき、その農村風景の魅力を県内外に発信していくため、心に残る「ふるさと信州」の情景をテーマとした農村風景の写真を募集したところ、会員の皆様におかれましては写真の応募のほか、農村風景写真の地域審査委員としても多大なる御理解、御協力をいただきまして感謝申し上げます。

後期分として、本年4月末まで引き続き農村風景写真を募集しておりますので、よろしくお願いたします。

昨年の建築士会佐久支部の輝かしい御活躍に敬意を表するとともに、一層の御活躍を御期待申し上げます。

昨年10月19日に開催された日本建築士会連合会青年委員会主催の第56回建築士会全国大会しまね大会「あつまれ建築士～つながる地域実践活動発表会～」において、建築士会佐久支部青年女性委員が発表しました「まちづくりへの挑戦～佐久穂の〈まちなみ〉再考プロジェクト～」の活動が評価され、最高賞である「日本建築士会連合会会長賞」に輝きました。建築士会佐久支部の皆様、青年女性委員会の皆様、ほんとうにおめでとうございます。これからも、佐久地域の社会貢献やまちづくり活動など、より一層の御活躍を御期待いたします。

出澤 潔様におかれましては、長野県建築士会会長、長野県建築審査会会長、長野県景観審議会会長など多くの役職を務められ、長年の公益に寄与された顕著なご功績が認められまして、昨年の春、「旭日双光章」の荣誉ある叙勲を受章されましたことに、改めまして心より御祝いを申し上げます。今後とも、一層の御活躍をされますようお祈りいたします。

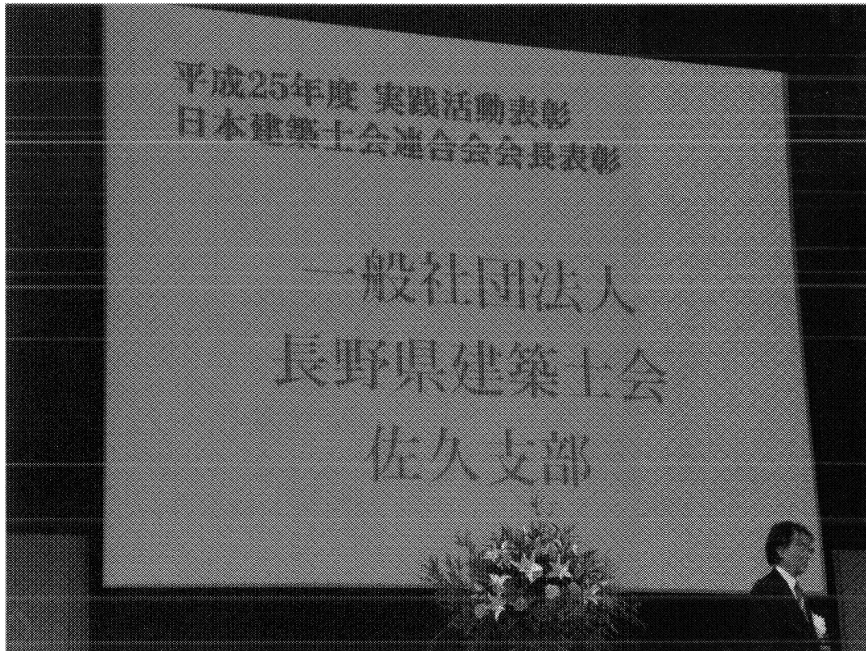
本年も、会員皆様方の知恵と創造力あふれる活動によりまして、活力ある佐久地域を創り上げていただきますよう御期待いたします。

むすびに、会員の皆様方が活力にあふれ、笑顔が輝く希望に満ちた一年となりますよう御祈念申し上げ、新年のごあいさつといたします。

## 第56回 建築士会全国大会（島根）にて

日本建築士会連合会会長賞 受賞

井出 正臣



ってきた佐久穂町での活動内容を発表し、残された建築物を歴史文化と共に再考し、活性化を行うまちづくりの手法の定義や実践活動の必要性を訴えました。7ブロックの発表の中で、活動の主体が今ある地域の問題を解決しようとする「まちづくり」である支部が多い事を発表により知り、全国の青年建築士が感じている危機感と方向性が同一である事を強く感じました。

10月19日に島根県松江市「くにびきメッセ」で開催された第56回建築士会全国大会しまね大会の前日、同会場にて連合会青年委員会主催の「あつまれ建築士～つながる地域実践活動発表会～」に、関東甲信越ブロック代表として参加させて頂きました。

この発表会に参加させて頂くまでの経緯としては、2月の長野県青年の集いにて地域実践活動報告にて最優秀賞の評価を頂き、さらに6月に開催された関東甲信越ブロック大会での発表でも最優秀賞の評価を頂いた事により、出場権を得たものです。

全国7ブロックの代表が集まり、大会前日にもかかわらず青年を中心とした全国の建築士二百人以上が参加し、それぞれの地域実践活動の発表に眼を向け、耳を傾けました。

長野県建築士会佐久支部は「まちづくりへの挑戦～佐久穂の〈まちなみ再考〉プロジェクト」と題して、昨年からの佐久支部青年女性委員会が信州大学経済学部武者忠彦研究室と共同で行

また、北海道建築士会の発表による疲弊する道営競馬に士会がどう携われるかという取り組みには、地方財政や地域経済に踏み込んだ大きな挑戦への一歩であるという切実さを感じ、地方政治に携わる者、また競馬ファンとして深い感銘を受けました。

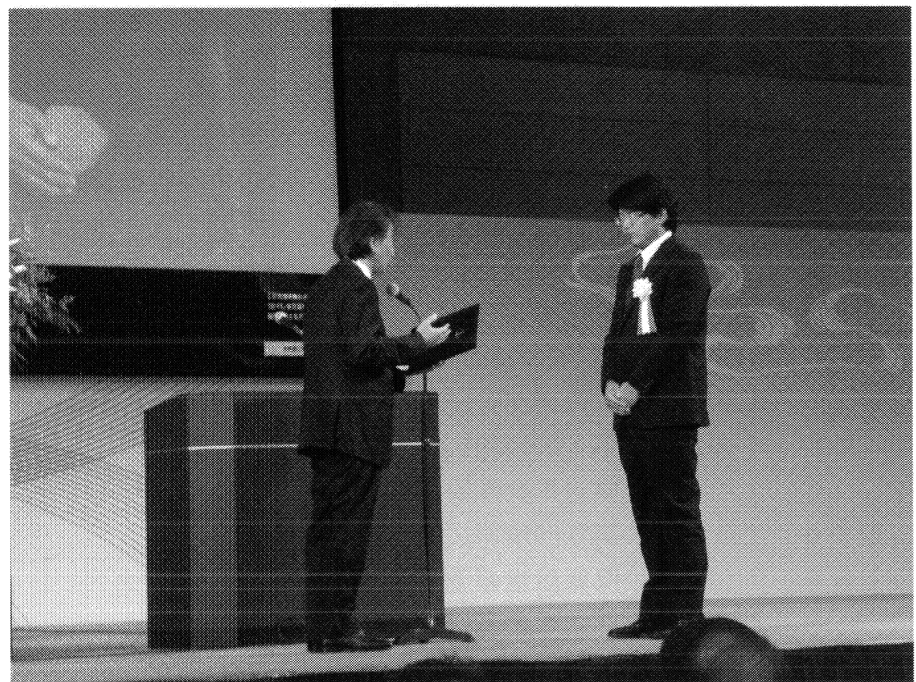
発表の後には、7つのグループに分かれた30分間のテーブルディスカッションを2回転行いました。大学生との共同活動での問題点や、地域の巻き込み方など、発表では伝えられない事に対する多くの質問を頂き、私達の活動への興味の高さを知る事ができる有意義な時間となりました。その中で私が最も訴えたかったのは「情熱」でした。今回の私達の活動は、県の支援金を活用でき、大学との共同作業という事も実現し、「金と人」には恵まれた状況でした。しかし、それが満たされれば質の高い活動が出来るかというところではなく、地域を何とかしたい、自分たちの力で何かを動かさせないかという「情熱」がなければ、何も意味がないという



動の成果や実効性の高さを改めて確認できたという話を聞く事が出来ました。こういった長野県からの参加者が価値ある時間を過ごせた事に対し、発表者としても充実感を感じる事が出来ましたし、他地域の活動を自地域へ活かす事の出来る最良の形になったのではないかと感じています。

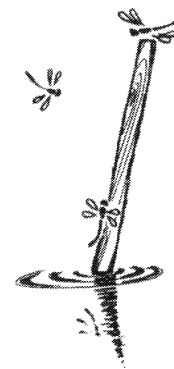
事を訴える事が出来たのは、長野県の青年の集いや関プロ青年協でも伝える事が難しかった部分だけに、私自身、非常に高い満足感に浸る事が出来ました。

7ブロックの活動内容を参加者が評価し投票を行い、集計の結果、長野県建築士会佐久支部の活動は、最高賞である「日本建築士会連合会会長賞」を頂きました。開催ブロックや隣接ブロック



の動員が多いと言われる中で、関プロから出場した私達がこういった賞を頂ける事は日本の建築士の真摯な姿勢の一端を見る事が出来た瞬間でもありました。

活動の優越を付ける事には賛否ありますが、評価を頂けるという事に関しては素直に嬉しく、何とも言えない達成感がありました。また、当日参加した佐久支部の青年委員が自県以外のテーブルディスカッションに付き、全国の活動を聞き、比較する中で、自分たちのこれまでの活



## 平成25年度 事業中間報告

月 日	行 事 名	場 所
3. 1 1～4. 1 5	二級・木造建築士試験申込用紙配布	
4. 1 1～5. 1 3	一級建築士試験申込用紙配布	
4. 4	第6回三役会	佐久グランドホテル
4. 6	第1回青年女性委員会	3月9日青春食堂
4. 1 1	第1回情報広報委員会	佐久グランドホテル
4. 1 2	第1回教育事業委員会	八風
4. 1 8	第7回三役会及び第5回幹事会	佐久グランドホテル
4. 1 9	県三役会	長野県建築士会館
4. 2 2	第8回三役会	佐久グランドホテル
4. 2 5	県理事会	長野県建築士会館
4. 2 6	新入会員歓迎会	かつ栄
5. 8	第3回協議会及び第1回幹事会	佐久グランドホテル
5. 1 0	元気づくり支援金説明会	佐久合同庁舎
5. 1 0	県総務情報委員会	長野県建築士会館
5. 2 3	第1回三役会	佐久グランドホテル
5. 2 5	第63回長野県建築士会通常総会	長野市
5. 2 5	60周年記念講演会・記念式典・祝賀会	長野市
6. 4	第2回三役会及び第2回幹事会	佐久グランドホテル
6. 7	泉小学校景観授業	泉小学校
6. 7	県理事会	長野県建築士会館
6. 1 0	第2回青年女性委員会	野沢会館
6. 1 2	佐久南インター景観をつくる会花植え作業	桜井・岸野地区
6. 1 3	第2回情報広報委員会	佐久グランドホテル
6. 1 4	県青年女性委員会	長野県建築士会館
6. 1 6	第3回情報広報委員会	佐久グランドホテル
6. 1 8	県総務情報委員会	長野県建築士会館
6. 1 9	県景観整備機構	長野県建築士会館
6. 1 9	第1回交流委員会	佐久グランドホテル
6. 2 0	第1回総務企画委員会	佐久グランドホテル
6. 2 0	県建築活動委員会	長野県建築士会館
6. 2 6	県社会貢献委員会	長野県建築士会館
6. 2 8～2 9	関東甲信越建築士会ブロック会 青年建築士協議会「千葉大会」	千葉県
7. 1	第4回情報広報委員会	佐久グランドホテル
7. 2	第1回社会貢献委員会	佐久グランドホテル
7. 4	東信ブロックゴルフコンペ	千曲カントリー
7. 5	第2回教育事業委員会	野沢会館
7. 8	第3回青年女性委員会及び勉強会	こんどう
7. 1 1	県CPD・専攻建築士制度運営委員会	長野県建築士会館
7. 1 1	第1回三役委員長会議	野沢会館

月 日	行 事 名	場 所
7. 17	第2回総務企画委員会	野沢会館
7. 17	県フォーラム実行委員会	長野県建築士会館
7. 24	賛助会員との意見交換会	佐久グランドホテル
8. 6	第1回実務講習会	佐久勤労者福祉センター
8. 9	第2回社会貢献委員会	野沢会館
8. 19	第4回青年女性委員会	野沢会館
8. 22	第2回交流委員会	佐久勤労者福祉センター
8. 22	県フォーラム実行委員会	飯田市
8. 30	県フォーラム実行委員会	長野県建築士会館
9. 3	八千穂小学校 ワークショップ	八千穂小学校
9. 5～7	「光と歳」イベント	佐久穂町穂積
9. 6	県理事会	長野県建築士会館
9. 6	第3回教育事業委員会	佐久勤労者福祉センター
9. 9	第5回情報広報委員会	佐久グランドホテル
9. 10	第3回交流委員会	野沢会館
9. 11	第3回社会貢献委員会	野沢会館
9. 12	第3回三役会及び第3回幹事会	野沢会館
9. 19	三団体親睦ゴルフコンペ	望月東急ゴルフクラブ
9. 25	県会員増強プロジェクト	長野県建築士会館
9. 30	第2回実務講習会	佐久勤労者福祉センター
10. 4	第3回総務企画委員会	野沢会館
10. 7	第4回社会貢献委員会	野沢会館
10. 8	出澤潔名誉会長叙勲受賞祝賀会	メルパルク長野
10. 9	県ゴルフ大会	望月カントリークラブ
10. 12	第9回建築士ネットワーク・佐久2013	佐久グランドホテル
10. 18～20	三団体合同研修旅行（全国大会参加）	島根県
10. 25	第4回総務企画委員会	野沢会館
10. 26	県青年女性委員会東信ブロックセミナー	千曲市
10. 26	県建築活動委員会	飯田市
11. 7	第5回社会貢献委員会	野沢会館
11. 9	建築士フォーラム2013 in 飯田	飯田市
11. 14	佐久南インター景観をつくる会片付	泉・岸野地区
11. 18	東信ブロック連絡会議	上田市
11. 23～24	子どもと作ろう！ウッドクラフト	イオン佐久平店
12. 3	第4回三役会及び第4回幹事会	佐久グランドホテル
12. 5	第12回佐久地域建築文化賞審査会	
12. 6	県三役会及び理事会	松本市
12. 12	日本建築士連合会会長賞受賞報告会	佐久グランドホテル



## 三団体合同研修旅行に 参加させていただいて

飯田 智

「日本建築士会連合会会長表彰」この度、青年委員会井出正臣さん主催の活動が見事日本の建築士青年委員会の一番を勝ち得たことにお喜びを申し上げます。

朝の集合時間に駆けつけたのは自分が最後でした。このバタバタ人生何とかならないものかといつも感じながら旅立ちを迎えています。バスに乗り込み出発です。日本の気候の違いを車窓から眺めながら忙しい毎日の疲れを、車中でぐっすり眠らせていただきながら癒す事ができました。頭はすっきりでも……体がこるこる。



大山を通り過ぎ午後の4時ごろでしょうか。今も古い姿を残す松江城に到着しました。大きな柱は沢山の木を寄せ集めた現在の集製材のような柱でした。中に飾られた鎧兜や刀など戦国



時代ゆかりの品々をじっくり楽しんで、その後小泉八雲記念館を見たいと思いつつ、見学に降

りた方たちを恨めしく見送った後、青年委員会の活動報告の会場「くにびきメッセ」に到着しました。

各ブロックの活動報告を聞いていると、地域の中に建築士がいかに溶け込んでいくかという発表が見て取れます。ワークショップでは福島県のグループと、三重県のグループに参加させていただきました。各支部の活動の中で不明な点を聞きました。真っ先に手を上げて質問した、一緒にいた鎌田先輩の男気に勇気をもらいながら自分も質問ができました。

ワークショップが終わり、懇親会の会場に移り近くにいた岐阜の方と名刺交換などをしながらおいしいお酒と、とにかく食べようと料理を端から食べていました。だいぶ時間がたつところで、順位の発表がありました。長野は断ト



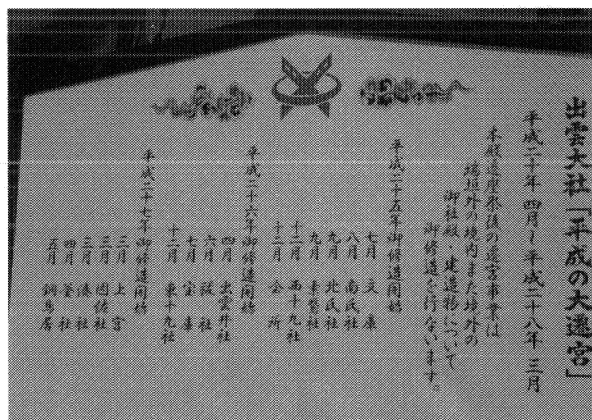
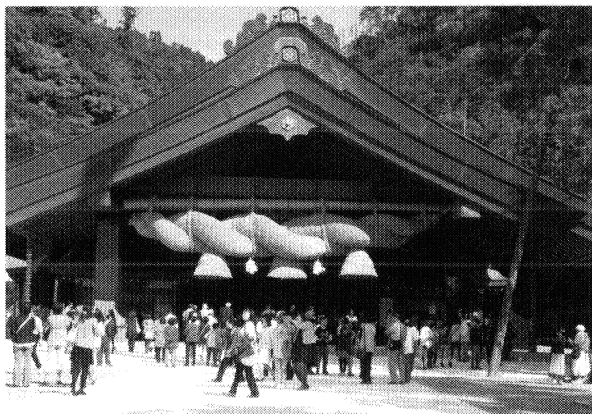
ツの一番。大興奮でした。青年の喜びは写真のとおりです。星野委員長が記憶をなくすぐらい飲まれたことから青年のはっちゃけぶりをご想像ください。宿に帰ったのは12時近く。皆で旅館前のラーメン屋さんでラーメンを食べようと意気込んでいましたが、今日はもう終いですという女将さんの声に落胆。眠りました。こんなときカップラーメンでも食べたいという人間の欲深さは驚きです。

次の朝、旧大社駅では破風の呼び方を建築士会の重鎮の方々に教えていただき「皆さん言ってる事が違うなあ」と感じながら大社文化プレイスにお邪魔しました。大きなホールでは音響装置や舞台装置のすごさに舌を巻きながら、図書館前で戯れる子供たちに、建築物は地域の方に使われてなんぼだなと感心しました。





出雲大社に到着し、ありったけ欲深いお願いを神様にお渡しして参りました。出雲大社には



日本の八百万の神様がお泊りになる宿舎があります。あいにくその日は扉が閉まっておりましたが、何回もお参りしてお願いを沢山でできました。叶うといいなあ。



その後博物館の見学をし、表彰会場に。巨大モニターに映し出された井出正臣さんを遠くから見ながら「おめでとうございます」って。届いたかな。

二日目の宿ではバイキング。日頃あまり食べられない、ステーキを心行くまで頂きました。その後夜の街では青年の皆で男気じゃんけんに花を咲かせました。本当に楽しかった。

帰りは足立美術館を見学し、無事に帰ってくる事ができました。

千葉での関東ブロック大会で見事優勝。飲みすぎた次の日、朝から会社へ入社する予定が寝坊し、ボスに怒られて優勝の喜び半減。全国大会への参加もお願いしづらいなか、こうして参加させていただいた会社の社長とスタッフの皆さんと、ご一緒させていただいた三団体の皆様に感謝を申し上げます。

出雲大社は縁結びの神様 沢山の建築士の皆さんとこうして縁を頂いている事に感謝を申し上げます。 感謝

(大変失礼な文章、お許してください)



# 建築士ネットワーク・佐久2013

## パネルディスカッション

小林 賢司

建築士ネットワーク・佐久2013の二部として「まちづくりと景観」をテーマとしたパネルディスカッションが行われた。

パネラーとして「佐久穂の〈まちなみ〉再考」にご協力頂いた信州大学経済学部准教授の武者忠彦氏。「佐久穂の〈まちなみ〉再考」の舞台ともなった建物所有者であり、新聞記者として各地を取材してきた黒澤大陸氏。(一社)長野県建築士会名誉会長、出澤潔氏の3氏。コーディネーターは前青年女性委員長、井出正臣氏が



務めた。

### ○建物・景観の意味・必要性

出澤氏からは今回のプロジェクトが町の財産・価値観の共有性を気付かせてくれた。町づくりとはみんながしあわせに暮らしていく為のものとの話がなされた。黒澤氏からは古い建物の所有者として先祖からの継続・維持管理等の問題などがある一方、今回のプロジェクトによって何らかの可能性を見せてもらったとの話が出た。武者氏からはアメリカの学者の言葉を引用し“景観とは記憶の保管庫である。(そこに生きてきた人の記憶を引き継いでいくもの。)”との意見が寄せられた。

### ○景観教育(地域への愛着)

前者の話を受け、地域の景観は思い出であり子供たちが自分たちの住んでいる場所について歴史や地域性を学ぶことによって地域に対する愛着が生まれ、次世代として意識が生まれるとの意見が出された。子供たちとのワークショップでは今のところ佐久穂らしさが子供たちに全く根付いていないことが明かされ、いかに愛着

を感じ取ってもらうかが課題とされた。

### ○地域の歴史的な建物の維持管理

黒澤氏からは古い建物の所有者の意見として、維持管理の大変さが語られ、率直な意見から複雑な気持ちが伝わり街並み全体としての難しさが感じられた。

出澤氏からは地域の景観や古い建物は地域の財産と考えなければならない、みんなで守っていこうと考えなければならない、との考えが示され、山形県金山町の強制ではない“景観のルール”を作り、それによって補助を出し町並み造りに個人の負担を減らそうとする、経済政策と絡めた取り組みの例が紹介された。

### ○経済と町づくり(継続性)

武者氏から今までの景観づくりは規制がメインだったが、これからの景観づくりは造っていく方向になるとの意見が出た。又、今までの景観づくり・町おこしのものは助成金を頼りに行われていたが為に途切れてしまうことが多々あり、継続性の難しさ・重要性の話が出た。地域景観に対する愛着をお金に還元していくこと(経済を絡めた活動)が重要課題との方向性が示された。これからの方法の一つとして住民に基金を募り継続的に景観を造っている町の例が出された。

### ○まとめ(建築士への期待・目指す方向)

武者氏: 建築士は景観を評価する力・土地を読み解く力・形にする力・等が長けているのでそういった部分が重要になる。

黒澤氏: 建物や町を見続けるホームドクター的な存在として活躍してほしい。

出澤氏: 資格をどう使ってもらうかを考えなければならない。

今回、「佐久穂の〈まちなみ〉再考」を元に展開されたディスカッションでしたが、約50分の短い時間にも関わらず、“景観教育の必要性”“維持管理の難しさ”“事業の継続性”等々様々な課題が出され、佐久穂のプロジェクトの今後の展開の参考になったと思います。我々も建築士として社会に対して何をどうしていくかを改めて考えさせられた時間となりました。

## 特別講演会

櫻井 和也



建築士ネットワーク・佐久2013年の特別講演会は、特別講師に阿部守一長野県知事をお迎えして「みんなで創ろう しあわせ信州」との演題で、ご講演をしていただきました。平成22年9月に阿部知事がご就任されてからの、長野県行政全般についてお話していただく前に、知事からお願いしている事として、長野県観光PRキャラクター「アルクマ」がユルキャラグランプリ2013で上位に入れるよう、インターネット上での投票に協力してほしいとの依頼をいただきました。また、依頼とは別に、「信州まちなみスタディーズ〈佐久徳〉」の本についてのご感想もいただきました。知事は、すでにこの本を全部お読みになり、その内容がすばらしいと高く評価してくださいました。この本は、信州大学経済学部武者忠彦先生とゼミの学生の皆さん+長野県建築士会による、佐久穂町のまちなみ調査活動をまとめたものです。この調査をするにあたり建築士会佐久支部では、長野県の「地域発元気づくり支援金事業」に応募し、採用され、県から支援をいただいておりますが、このような支援金の使われ方は、すごく良いとお褒めもいただきました。

まず、長野県の行政に関しては、地方分権を推進していきたいとのこと、東京発の情報が圧倒的に多い中、阿部知事が県政を進めて行く一番の基本は「県民参加の協働」であると。

昨年末の、日本総合研究所による、都道府県別幸福度ランキングでは、長野県が総合1位になり、ちなみに2位が東京だったと言うことで、決して地方に有利なデータをもとにしていない証明ではないかとお考えでした。健康長寿では、男性・女性とも1位。そんな長野県ですが、県民の期待にどう答えるか、県職員のミッションは、「最高水準の行政サービスの提供を通じて、ふるさと長野県の発展と県民の幸せの実現に貢献すること」とのことでした。

また、長野県は森林県だけれど、林業県ではないので、今後、木材の利用を考える事と、同時に人材も育成して行きたい。

そして、県のPR活動としては、広報長野県を復活し、ホームページも、リニューアルし、見やすくしていますとの事でした。

県政に参加してほしいとお考えから、「県政モニター」や、女性の能力が発揮できる場を作り、子育て先進県を推進。また、県立子供病院の充実した医療体制で、乳幼児の死亡率の大幅減少も長寿県に寄与している。

教育の質の向上の点からは、小中学校の30人規模学級や中高一貫教育の導入、さらには、イノベーションを起こせる人材の育成を目指すとお考えで、長野県は、知的基盤である大学の定員数が全国で一番低い状況から、県立の4年生大学を作る決心をされたそうです。

自然エネルギーの活用や水資源保全条例、ドクターヘリ2機体制等、私たちの暮らしの向上に役立つものとなっていると思います。

最後に、私たち建築士会に向けてのお願いとして、景観の育成に提案をしてほしい事と、自然エネルギーの活用と環境エネルギー性能検討を行い、省エネ型住宅を作ってほしいとの2点がありました。

知事の目指す、「美しい長野県」の構築に向け、私たちは、建築士の立場で、ご協力していければと思います。

## 「第7回 みんなで作ろう!! ウッドクラフト」事業報告

社会貢献委員長 吉澤 和彦

11月23日（土）24日（日）の2日間、イオンモール佐久平店にて「第7回 子供と作ろう!! ウッドクラフト」を開催しました。私が委員長になって最初で最大のイベントに、何も分からないで不安を抱えていました。当日まで何回もの委員会が開かれ、委員の皆様のお力添えをいただいで無事盛大に開催出来た事をお礼申し上げます。

本年度は、製作コーナーは建築士の仕事を、子供さんたちに少しでも理解してもらえる様に建築確認形式の体験してもらおうと計画しました。



受付をして、確認申請書に製作したい物（イス・花台・CDラック）にチェックをしていただき、名前を書いて提出、そして材料をもって製作する。製作が完了すると、受付にて検査済の証としてのスタンプを押してもらい、記念品（カンバッチ）を受け取り、終了と建築士の日頃の仕事役割等、マイホーム 建築に必要な設計や監理について、説明を記したパンフレットをお渡ししました。

今年は制作費も全て無料という事もあって、イス 55台・花台 55台・CDラック 30台が両日共予定時間より早くに終了する程でした。

ホットボンド工作コーナーでは、井出陽治さ



んに準備いただいた「ふくろう」や青年女性委員会の皆さんに準備いただいた枝・どんぐり・豆などが大人気で、大人迄夢中になって楽しんでいました。

二日間を通して感じた事は、ウッドクラフトがこんなに一般の方に楽しんでいただいたり、喜んでいただいている事「毎年楽しみにしています」「来年もやっていますか」などと問いかけられたり、県外から来られている方もいる事に大変びっくりしました。

建築士の社会貢献として、立派なイベントだと心より思いました。

終わりに、材料を加工してくださった方々及び参加してお手伝いをしてくださった皆様、本当にありがとうございました。

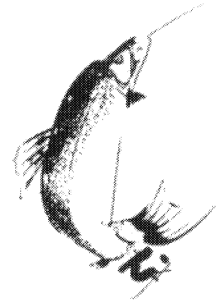


# 第12回 佐久地域建築文化賞入賞者

## ○ 最優秀賞（地方事務所長賞）

一般部門 該当作品なし

住宅部門 該当作品なし



## ○ 優秀賞

一般部門 該当作品なし

住宅部門

設計者	鎌田 賢太郎（鎌田建築設計室）		
所在地	小諸市大字市	作品名	美容室と光庭の家
設計者	菊池 弘之・菊池 広美（菊池ひろ建築設計室）		
所在地	軽井沢町大字長倉	作品名	軽井沢Ⅰ邸

## ○ 特別賞

一般部門

設計者	甘利 享一（甘利享一建築設計舎）		
所在地	小諸市相生町	作品名	相生会館

住宅部門

設計者	鎌田 賢太郎（鎌田建築設計室）		
所在地	軽井沢町大字長倉	作品名	大きな栗の木の下の家

## ○ 奨励賞

一般部門 該当作品なし

住宅部門

設計者	片井 英治（片井工務所）		
所在地	佐久市横和	作品名	もも畑に建つ渡りアゴの家

## 特別寄稿

### ちょっと考えてみませんか

出澤 潔

昨年は私達佐久支部にとって、とても誇らしく素晴らしい事がありました。井出正臣さんを中心にした青年女性委員会の「佐久穂のくまちなみ>再考プロジェクト」活動に対して日本建築士会連合会の平成25年度実践活動最優秀賞が与えられた事です。

関係された皆様のご苦勞を思うと共に、心からのお祝いを申し上げます。そして、この活動を支えご指導ご協力を戴いた皆様方にも深い感謝を捧げます。

歴代の支部長・役員そして会員が育ててきた公共への思いが佐久支部のDNAとなって、このように見事な花を咲かせたように思います。この成果を糧に一層地域から求められ地域と共にある建築士会として発展する事を願っています。

『建築士』2013年7月号で『ものづくりの危機をどう乗り切るか』として、建設現場での技能者不足の実情とその対応が論じられている。

建設現場における技能者不足が野丁場（ビルや公共建築）の現場のみならず町場（住宅の現場）でも進行しているとして、延面積30坪2階建住宅の建方完了後から竣工までの間に大工がどのような作業をしているかを調査した結果、その大半が石膏ボードの切断、ビス打ちであったとグラフを交えて報告されている。そして「職能としての技能は決して<手づくりの味>などというものではなく正確無比の再現性に価値があり技能者の仕事や求められる技能の中味は変わりつつあり、技能は言葉や数値で教える事は難しく、見て盗むものだと語り継がれてきたが本当にそうなのだろうか」と従来の技能の伝承の仕方に疑問を投げ掛けている。

そして「若年層への技能の習得をシステム化する事によって短期間での技能者育成が可能で

あり、技能者育成への先入観、枠や壁を払拭していくことがこの産業の未来を切り拓くために必要なことである」と結んでいる。

昨今の技能者不足の要因については様々言われているが、私は市場経済社会での建設需給の永年の歪がこのような現況を生み出していると考えている。国は建設産業の担い手確保のためとして、遅ればせながら法制度改正などでその対応を始めようとしているが、住宅などの現場にどの程度の効果が表れるのだろうか。

昨年発表された『長野県住生活基本計画』では県内の大工就業者数は1980年（ピーク時）と比較して2005年には約7300人、36%の減となっている。手元にある古い資料は県の本造建築大工工事事業所が2001年から2006年の5年間で620箇所減少した事を示している。また昨年発表された国交省の『木造住宅の担い手育成について』では全国の大工就業者数を1980年（ピーク時）と比較して2010年では約54万人58%減となっている。建設業全体の年齢構成を見ると2011年の55歳以上の就業率は33%、29歳以下は12%を示し建築生産の場の高齢化を明確に示している。文科省の資料によると建設業の新規就職者は1997年（ピーク時）に比べ大卒は47%減、高卒は39%減となっている。

4年前、私は『建築士』のオピニオン欄に『木造住宅と周辺技術の継承』として下記の意見を寄せた。「こうした現状を見た時、良質な住まいを提供する為の技術がどう守られ、継承されていくのか、改めて考えさせられてしまう。建築生産も市場経済社会での行為であった時、私達はこの現実を受け入れ前向きな議論に発展させなければならない。伝統的技術を継承する為の仕組みは各地で実践されてはいるが、今真に求められているのは市井（町場）の現場での技術の継承ではないだろうか」

先に記した『ものづくりの危機をどう乗り切るか』では「システム化した技術の継承と経済的な環境を整える事によって、若い人達がこの産業の将来に希望を持つ事が大切」と人

材不足への対応を具体的に提案している。

過日信州名匠会で次のような話をさせていただいた。「住宅産業としての住まいづくりが市場経済社会で一層強くなる事は否定出来ない。そして、こうした社会構造を私達が一朝一夕に変える事は難しい。技能が継承され難いこのような社会は、文化としての住まいを否定しようとしているようにさえ思える。私達が今考えられる事は、社会に感謝の心が戻り、働く職人さん達が人の感謝の心を体感し、物を造る喜びを感じた時、建設生産の場に再び光が射し活力が戻る事のように思う」

先日ラジオからこんな投稿が流れていた。「私の家で建前があり、お昼に蕎麦の出前を出しました。お昼が終わった後、20歳代の若い職人さんが皆の物を片付けて、ご馳走様でしたと言って元気よく仕事に掛かってくれました。とても嬉しい事でした」

さて、皆さんはどう考えるでしょうか。

## 新入会員の声

### 井野 勇志

4月から建築士会佐久支部でお世話になっております、井野勇志と申します。

入会してすぐ、佐久支部の若手が活発的に活動していることをすぐに実感しました。4月末日、CGの勉強会が行われ、歓迎会も行っていました。この場で、こんなにも若手が集まり、勉強会をしっかりと行っていることに驚きました。他県では、若手の入会が少なく、青年部の上限年齢を年々あげて、青年部の高齢化が進んでいたり、あまり活動はしていないという事実を耳にしていたので本当に驚きました。さらに、建築士会全国大会(島根)で最優秀賞を受賞するなど、驚くことばかりです。

さて、長野県では、2014年より環境エネルギー一等の検討義務化が決定いたしました。地球温暖化対策としての必要性はもちろんですが、そ

れ以上に、長野県という寒冷地を持つ地域だからこそ、お客様の事を考えれば、国の基準である省エネ性能の等級4以上の断熱計画、暖房計画を提案行うとともに、これらを実施する施工技術の普及は急務であると思っています。これによりイニシャルコストが高くはなりますが、ランニングコストでの回収想定の情報提供できる手法もあり、この方向性を県で示していただいたことは、我々にとっても、本当によいきっかけをいただいたと思っています。

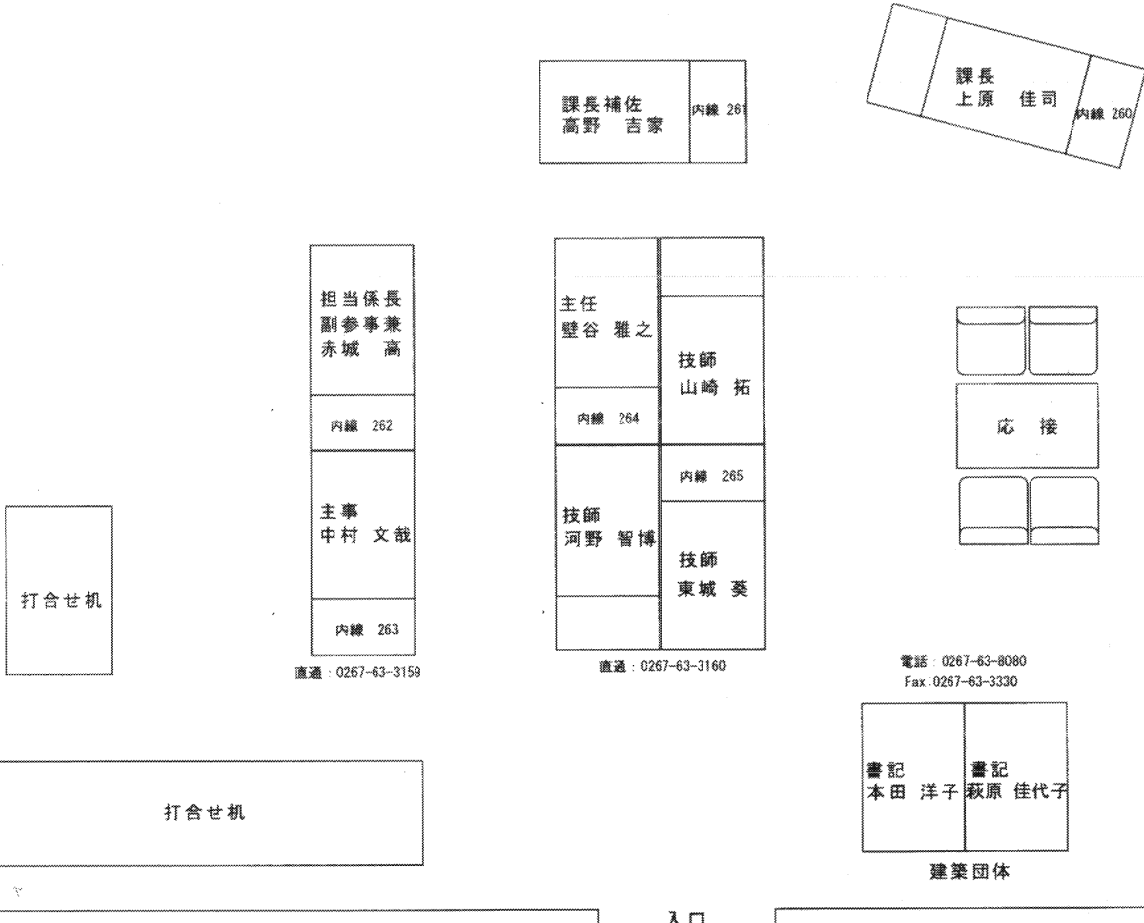
ただ、馴染みのない数値や考え方に頭を悩ます場面も正直あります。こういった悩みを建築士会の中で共有し、得意分野、不得意分野をお互い補い、地域の建築士の技術を高めていければ、これこそ建築士会の力ではないかと思えます。

省エネルギーに限らず、構造、設備、法規、あるいは、職人の知恵など、知識と経験を建築士会で共有し補っていける組織であれば、これほど素晴らしいことはないです。また、新しいことばかりでなく、地域に根差していた建築の伝統技術、街並み、建築文化を後世にしっかり残していくことも、我々建築士の義務でもあると考えています。

何より、皆様からのご指導、お力の拝借をさせていただきながら、頑張っていこうと思えますので、どうぞよろしくお願いいたします。



## 建築課配置図



### ● 編集後記 ●

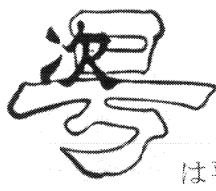
「日本建築士会連合会会長賞受賞」。井出正臣さんを中心にした青年女性委員会の活動が見事建築士会全国大会（島根）にて最高賞を受賞。おめでとうございます。

建築士会会員として良い刺激を貰いました。

又、新入会員の増も期待したいと思います。

原稿依頼を快く受け入れてくれた皆さん、ありがとうございました。（T・Y）

会報『ちくま』第50号 2014/1  
 発行者 (一社)長野県建築士会 佐久支部  
 情報広報委員会  
 事務局 〒385-8533 佐久市跡部65-1  
 佐久地方事務所内  
 TEL 0267-63-8080  
 FAX 0267-63-3330  
 E-mail:ken8080@seagreen.ocn.ne.jp  
 支部HP <http://www.aba-saku.com/>  
 印刷所 プリントショップ コスモス  
 TEL 0267-54-8010



は平成26年7月中旬予定です。